2018年度シラバス

| 科目名:言語学特論Ⅰ | 担当者:都　恩珍 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:中学校・高等学校教諭専修免許状（英語） | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
言語は個人の生活や社会の運営にとって不可欠なものであり、言語によって我々は世界を捉え、ものを考え、思いを表現している。しかし、我々の言語の本質や価値に関する理解や認識は十分とは言えない。本授業は、あらゆる角度から言語活動の意義と実態を補足しようとする言語学の諸研究成果を取り上げながら、それらの問題についてじっくり考察していくことを目的とする。事前に配布する資料およびテキストを精読し、自分なりの理解を述べながら討議し、最後に与える主題についてレポートを出す。

授業の到達目標
言語学の諸研究領域についての基礎的な理解が深まるようになる。日常の「ことば」を注意して観察・意識しながら、「ことば」を通して生活や社会の営みを捉える視点を持つようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
言語学関連の入門書を読み、基礎力をつける。新聞や雑誌などの「ことば」を主題にした記事・文章をスクラップし、それについての意見をまとめる。授業外に必要とされる学修時間：約4時間

評価方法
授業中の課題発表（40%）、期末のレポート（40%）、学修活動への参加20%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 『入門ことばの科学』　　大修館書店 | 授業中に提示する |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日常の言葉を研究の対象として観察すると、様々な面白さが見えてきます。 連絡先は授業中に提示します。諸事情により予定を変更することもあります。　オフィスアワー：金曜日３限

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション、ことばの話 |
| 02 | 言語とは何か |
| 03 | 言語の起源 |
| 04 | 動物の伝達と人間の言語 |
| 05 | 言語の習得 |
| 06 | 言語の構造 |
| 07 | 発音記号の役割 |
| 08 | 発話の意味 |
| 09 | 言語の多様性 |
| 10 | 言語と社会 |
| 11 | 言語接触 |
| 12 | ピジンとクレオール |
| 13 | 言語の系統 |
| 14 | 世界の言語 |
| 15 | 言語学的アプローチの試み |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:言語学特論Ⅱ | 担当者:都　恩珍 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:中学校・高等学校教諭専修免許状（英語） | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
コミュニケーションにおける言語研究の中で談話分析を取り上げ、その理論や方法論を考察する。最近の実証的談話分析研究の理解を踏まえつつ、実践例を参考にしながら、分析の手法を具体的に学び、データ収集から分析作業までを実際に試みる。事前に配布する資料およびテキストを精読し、自分なりの理解を述べながら討議し、最後に与える主題についてレポートを出す。

授業の到達目標
談話研究についての理解が深まるようになる。日常の「ことば」を注意して観察・意識しながら、会話のメカニズムを分析的に捉える視点が身につく。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
談話・会話分析関連の入門書を読み、基礎力をつける。生の会話データを集め、文字化し、資料化する。授業外に必要とされる学修時間：約4時間

評価方法
授業中の課題発表（40%）、期末のレポート（40%）、学習活動への参加（授業態度）20%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 『談話分析のアプローチー理論と実践』研究社 | 『談話分析の可能性』泉子・K・メイナード　くろしお出版<br>『会話分析・ディスコース分析』鈴木聡志　新曜社『談話資料　日常のことば』　現代日本語研究会　ひつじ書房 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日常の言葉を研究の対象として観察すると、様々な面白さが見えてきます。　　連絡先は授業中に提示します。諸事情により予定を変更することもあります。　オフィスアワー：金曜日３限

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション、談話分析について |
| 02 | 理論と背景 |
| 03 | 海外の談話分析、日本の談話分析 |
| 04 | 意図表現と解釈 |
| 05 | 文脈情報と意味 |
| 06 | 会話の構造 |
| 07 | 会話のストラテジー |
| 08 | テクストと情報 |
| 09 | 言語機能と文法 |
| 10 | 言語と文化 |
| 11 | 相互行為の理論 |
| 12 | 相互行為の分析 |
| 13 | 相互行為と社会的心理 |
| 14 | 言語と社会的権力 |
| 15 | 談話分析の意義と展望 |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:哲学特論Ⅰ | 担当者:井上　文人 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
哲学とは、〈世界の在り方〉とその中での〈人間の生き方〉を考察する学問である。哲学特論は、特殊な問題から哲学全体を明らかにしようとするものである。本哲学特論は、「現代を創造的に生き抜く英知を育てる」ために、通常の人間が生きる日常の中の様々な生き方の諸問題から哲学的思考を明らかにすることを本授業の概要と方法としている。

授業の到達目標
本哲学特論Ⅰは、平易な表現で本質的な思考を行う『14歳の哲学』という素材を通じて、〈哲学する〉という哲学的思考の体得を本授業の到達目標としている。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学習：授業の準備学修としてテキストの該当箇所の事前の読解・熟考は必需である。：２時間事後学習：各授業で扱われた生き方の諸問題の継続的な考察が重要である。：２時間

評価方法
レポート試験点〔80%〕と平常点（出席や受講態度等）〔20%〕の総合評価で行う。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 池田晶子著『14歳からの哲学―考えるための教科書―』 | 授業中に指示します。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日常的に様々な問題を〈哲学する〉姿勢を持とうとすることが重要である。連絡先は授業で開示します。

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション・考える１ |
| 02 | 考える２ |
| 03 | 考える３ |
| 04 | 言葉１ |
| 05 | 言葉２ |
| 06 | 自分とは誰か |
| 07 | 死をどう考える |
| 08 | 体の見方 |
| 09 | 心はどこにあるか |
| 10 | 他人とは何か |
| 11 | 家族 |
| 12 | 社会 |
| 13 | 規則 |
| 14 | 理想と現実 |
| 15 | 友情と愛情 |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:哲学特論Ⅱ | 担当者:井上　文人 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須. 選択 | |

授業概要と方法
哲学とは、〈世界の在り方〉とその中での〈人間の生き方〉を考察する学問である。哲学特論は、特殊な問題から哲学全体を明らかにしようとするものである。本哲学特論は、「現代を創造的に生き抜く英知を育てる」ために、通常の人間が生きる日常の中の様々な生き方の諸問題から哲学的思考を明らかにすることを本授業の概要と方法としている。

授業の到達目標
本哲学特論Ⅰは、平易な表現で本質的な思考を行う『14歳の哲学』という素材を通じて、〈哲学する〉という哲学的思考の体得を本授業の到達目標としている。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学習：授業の準備学修としてテキストの該当箇所の事前の読解・熟考は必需である。：２時間事後学習：各授業で扱われた生き方の諸問題の継続的な考察が重要である。：２時間

評価方法
レポート試験点〔80%〕と平常点（出席や受講態度等）〔20%〕の総合評価で行う。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 池田晶子著『14歳からの哲学―考えるための教科書―』 | 授業中に指示します。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日常的に様々な問題を〈哲学する〉姿勢を持とうとすることが重要である。連絡先は授業で開示します。

| | |
|---|---|
| 01 | 恋愛と生 |
| 02 | 仕事と生活 |
| 03 | 品格と名誉 |
| 04 | 本物と偽物 |
| 05 | メディアと書物 |
| 06 | 宇宙と科学 |
| 07 | 歴史と人類 |
| 08 | 善悪１ |
| 09 | 善悪２ |
| 10 | 自由 |
| 11 | 宗教 |
| 12 | 人生の意味１ |
| 13 | 人生の意味１ |
| 14 | 存在の謎１ |
| 15 | 存在の謎２・まとめ |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:English Linguistics Ⅰ | 担当者:内田　政一 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:中学校・高等学校教諭専修免許状（英語） | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
本授業では、英語学の多岐に渡る研究領域を深く理解し、各領域において基本的な思考法と専門用語を確認し、どのような研究課題が存在するかを考えて行く。毎回、各テーマについて事前に予習をしておき、中心となる課題について議論し、整理し、自分の言葉で考察を加えることで、英語学的な発想とその理解を深めて行く。

授業の到達目標
英語学的な思考法を理解する。データを整理し、問題点を抽出する能力を養う。また機能的な学習により発見学習の素地を構築する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
事前に示したテーマについて、予習をしておくのと同時に、自分なりの考察をしておくこと。

評価方法
授業でのプレゼンテーション50%　課題レポート50%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| Linguistics　Adrian AKMAJIAN　他　著　　MIT Press | その都度指示する。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
辞書を必ず持参すること。

| | |
|---|---|
| 01 | What is linguistics? |
| 02 | Morphology:The study of the structure<br>Morphology:The study of words |
| 03 | Phonetics and Phonemic Transcription |
| 04 | Phonology:The study of sound structure |
| 05 | Syntax:The study of sentence structure (Some background concepts) |
| 06 | Syntax:The study of sentence structure (A more formal account of syntactic theory) |
| 07 | プレゼンテーション |
| 08 | Semantics:The study of meaning and denotation (Semantics as a part of grammar) |
| 09 | Semantics:The study of meaning and denotation (The scope of a semantic theory) |
| 10 | Language variation |
| 11 | Language change |
| 12 | Pragmatics:The study of language use and communication |
| 13 | Psychology of language: Speech production and comprehension |
| 14 | Language acquisition in children |
| 15 | Language and the brain |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:English LinguisticsⅡ | 担当者:内田　政一 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:中学校・高等学校教諭専修免許状（英語） | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
本授業では、英語学の多岐に渡る研究領域を深く理解し、各領域において基本的な思考法と専門用語を確認し、どのような研究課題が存在するかを考えて行く。毎回、各テーマについて事前に予習をしておき、中心となる課題について議論し、整理し、自分の言葉で考察を加えることで、英語学的な発想とその理解を深めて行く。

授業の到達目標
英語学的な思考法を理解する。データを整理し、問題点を抽出する能力を養う。また機能的な学習により発見学習の素地を構築する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
事前に示したテーマについて、予習をしておくのと同時に、自分なりの考察をしておくこと。

評価方法
授業でのプレゼンテーション50%　課題レポート50%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| First Verbs: A case study of early grammatical development　Michale Tomasello著　Cambridge university Press. | その都度指示する。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
辞書を必ず持参すること。

| | |
|---|---|
| 01 | Introduction and Cognitive linguistics and the development |
| 02 | The importance of verbs |
| 03 | In the beginning was verbs (Children's first verbs) |
| 04 | In the beginning was verbs (Children's first sentences) |
| 05 | Methods and an introduction to T's language (Semantics analysis of verbs) |
| 06 | Methods and an introduction to T's language (Syntactic analysis of sentences) |
| 07 | Change of state verbs and sentences (Exchange and possession of objects) |
| 08 | Change of state verbs and sentences (Location of objects and Movement of objects) |
| 09 | プレゼンテーション |
| 10 | Activity verbs and sentences (Activity involving objects) |
| 11 | Activity verbs and sentences (Activity not involving objects) |
| 12 | Other grammatical structures |
| 13 | Complex sentences |
| 14 | The development of T's grammar |
| 15 | Language acquisition as cultural<br>Language acquisition as cultural learning |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:English LinguisticsⅢ | 担当者:内田　政一 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
本授業では、英語学の多岐に渡る研究領域を深く理解し、各領域において基本的な思考法と専門用語を確認し、どのような研究課題が存在するかを考えて行く。毎回、各テーマについて事前に予習をしておき、中心となる課題について議論し、整理し、自分の言葉で考察を加えることで、英語学的な発想とその理解を深めて行く。

授業の到達目標
英語学的な思考法を理解する。データを整理し、問題点を抽出する能力を養う。また機能的な学習により発見学習の素地を構築する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
事前に示したテーマについて、予習をしておくのと同時に、自分なりの考察をしておくこと。

評価方法
授業でのプレゼンテーション50%　課題レポート50%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| Explaining English Grammar　George Yule　著　Oxford University Press. | その都度指示する |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
辞書を必ず持参すること。

| | |
|---|---|
| 01 | Introduction and terminology |
| 02 | Basic forms, Basic meaning and Meaning in context |
| 03 | Articles |
| 04 | Tense and aspect (Tense, aspect) |
| 05 | Tense and aspect (Lexical, and grammatical aspect) |
| 06 | Modals (Epistemic modality and root modality) |
| 07 | Modals (can, may, must, will, should) |
| 08 | プレゼンテーション |
| 09 | Conditionals |
| 10 | Prepositions and particles |
| 11 | Indirect objects |
| 12 | Infinitives and gerunds |
| 13 | Relative clauses (Subject and object relatives) |
| 14 | Relative clauses (who, which, that, where, when, why) |
| 15 | Direct and indirect speech |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:English LinguisticsⅣ | 担当者:内田　政一 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:中学校・高等学校教諭専修免許状（英語） | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
本授業では、英語学の多岐に渡る研究領域を深く理解し、各領域において基本的な思考法と専門用語を確認し、どのような研究課題が存在するかを考えて行く。毎回、各テーマについて事前に予習をしておき、中心となる課題について議論し、整理し、自分の言葉で考察を加えることで、英語学的な発想とその理解を深めて行く。

授業の到達目標
英語学的な思考法を理解する。データを整理し、問題点を抽出する能力を養う。また機能的な学習により発見学習の素地を構築する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
事前に示したテーマについて、予習をしておくのと同時に、自分なりの考察をしておくこと。

評価方法
授業でのプレゼンテーション50%　課題レポート50%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| Change in contemporary English:A grammar study<br>Geoffrey Leech他　著　Cambridge University Press. | その都度指示する。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
辞書を必ず持参すること。

| | |
|---|---|
| 01 | Introduction:‘grammar blindness’ in the recent history of English? |
| 02 | Comparative corpus linguistics:the methodological basis of this book |
| 03 | The subjunctive mood |
| 04 | The modal auxiliaries |
| 05 | The so called semi-modals |
| 06 | The progressive (Present progressive active) |
| 07 | The progressive (Progressive passive ) |
| 08 | プレゼンテーション |
| 09 | The passive voice (The be-passive ) |
| 10 | The passive voice (The get-passive) |
| 11 | Take or have a look at a corpus? Expanded predicates in British and American English |
| 12 | Non-finite clauses |
| 13 | The noun phrase |
| 14 | Linguistic and other determinants pf change (The functional and social processes of change) |
| 15 | Linguistic and other determinants pf change (Grammaticalization) |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:British Literature Ⅰ | 担当者:斎　孝則 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:中学校・高等学校教諭専修免許状（英語） | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
The purpose of this course is to read a couple of literary works of the U.K. and inspect their richness as literature through close reading. Also we will examine their social, cultural, historical & geographical background.

授業の到達目標
Upon completion of this course, students will be able to:1. understand how careful reading benefit us.2. understand how social, cultural understanding benefit our reading.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students are supposed to prepare well for classes. They are asked to submit weekly homework and monthly reflection throughout the semester.

評価方法
1. Weekly homework: 40%　2. Monthly reflection 30%　3. Semester portfolio 30%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| "Sense and Sensibility" | |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Contact information will be announced in class.

| | |
|---|---|
| 01 | Introduction to this course |
| 02 | Read and appreciate Volume I, Chapter 1~6 |
| 03 | Give an analysis, Volume I, Chapter 1~6 |
| 04 | Watch DVD, Volume I, Chapter 1~6 |
| 05 | Read and appreciate Volume I, Chapter 7~11 |
| 06 | Give an analysis, Volume I, Chapter 7~11 |
| 07 | Watch DVD, Volume I, Chapter 7~11 |
| 08 | Read and appreciate Volume I, Chapter 12~17 |
| 09 | Give an analysis, Volume I, Chapter 12~17 |
| 10 | Watch DVD, Volume I, Chapter 12~17 |
| 11 | Read and appreciate Volume I, Chapter 18~22 |
| 12 | Give an analysis, Volume I, Chapter 18~22 |
| 13 | Watch DVD, Volume I, Chapter 18~22 |
| 14 | Write a semester portfolio |
| 15 | Reflect upon this semester |
| 16 | None |

2018年度シラバス

| 科目名:British LiteratureⅡ | 担当者:斎　孝則 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:中学校・高等学校教諭専修免許状（英語） | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
The purpose of this course is to read a couple of literary works of the U.K. and inspect their richness as literature through close reading. Also we will examine their social, cultural, historical & geographical background.

授業の到達目標
Upon completion of this course, students will be able to:1. understand how careful reading benefit us.2. understand how social, cultural understanding benefit our reading.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students are supposed to prepare well for classes. They are asked to submit weekly homework and monthly reflection throughout the semester.

評価方法
1. Weekly homework: 40%　2. Monthly reflection 30%　3. Semester portfolio 30%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| "Sense and Sensibility" | |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Contact information will be announced in class.

| | |
|---|---|
| 01 | Introduction to this course |
| 02 | Read and appreciate Volume II, Chapter 1~7 |
| 03 | Give an analysis, Volume II, Chapter 1~7 |
| 04 | Watch DVD, Volume II, Chapter 1~7 |
| 05 | Read and appreciate Volume II, Chapter 8~14 |
| 06 | Give an analysis, Volume II, Chapter 8~14 |
| 07 | Watch DVD, Volume II, Chapter 8~14 |
| 08 | Read and appreciate Volume III, Chapter 1~7 |
| 09 | Give an analysis, Volume III, Chapter 1~7 |
| 10 | Watch DVD, Volume III, Chapter 1~7 |
| 11 | Read and appreciate Volume III, Chapter 8~14 |
| 12 | Give an analysis, Volume III, Chapter 8~14 |
| 13 | Watch DVD, Volume III, Chapter 8~14 |
| 14 | Write a semester portfolio |
| 15 | Reflect upon this semester |
| 16 | None |

2018年度シラバス

| 科目名:American Literature Ⅰ | 担当者:斎　孝則 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:中学校・高等学校教諭専修免許状（英語） | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

| 授業概要と方法 | |
|---|---|
| 授業の到達目標 | |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 | |
| 評価方法 | |
| 教科書 | 参考図書 |
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段) | |

| | |
|---|---|
| 01 | |
| 02 | |
| 03 | |
| 04 | |
| 05 | |
| 06 | |
| 07 | |
| 08 | |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

2018年度シラバス

| 科目名:American LiteratureⅡ | 担当者:斎　孝則 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

| 授業概要と方法 | |
|---|---|
| 授業の到達目標 | |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 | |
| 評価方法 | |
| 教科書 | 参考図書 |
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段) | |

| | |
|---|---|
| 01 | |
| 02 | |
| 03 | |
| 04 | |
| 05 | |
| 06 | |
| 07 | |
| 08 | |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

# 2018年度シラバス

| 科目名:English Education Ⅰ | 担当者:石渡 雅之 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:None | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
This class is designed for students who want to learn EFL/ESL teaching methods and theories. The goal of of this class is to have ability to teach English to non-native speakers of English.This course is consist of very short lectures, one presentation or paper quizzes, discussions, and reflections.

授業の到達目標
Students who pass this class will be able to:1-understand the academic vocabulary associated with the course2-become more aware of the differences and the similarities of SLA theories and methods3-begin to apply their new knowledge of language and linguistics to their future goal of teaching, or language teachings.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
To build students' critical thinking, they are expected to bring in their ideas, opinions, and background knowledge, which are all to be prepared before each class. In addition, they are expected to manage successful discussions based on what they prepare before lessons. Students need to get accustomed to write reflection upon their learning and always have to think about how they can apply those knowledge to an actual English classes.

評価方法
Monthly reflections-30%Project paper-20%Micro-teaching-20%Team paper-30%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 新英語教育アイロン高梨庸雄・高橋正夫　新英語教育概論（金星堂) | Needed information will be given in each class |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Office:7311

| | |
|---|---|
| 01 | Introduction to teaching English as a second language |
| 02 | Introduction to teaching English as a foreign language |
| 03 | Introduction to teaching as an international language |
| 04 | How to make a lesson plan? |
| 05 | Behaviorism |
| 06 | Cognitive learning theory |
| 07 | Constructivism |
| 08 | Zone of Proximal Development |
| 09 | Communities of practice (COP) |
| 10 | Legitimate peripheral participation |
| 11 | Affective filter |
| 12 | Micro-Teaching preparation |
| 13 | Micro-teaching |
| 14 | Micro-teaching feedback and review |
| 15 | New Course of Study |
| 16 | None |

2018年度シラバス

| 科目名:English Education Ⅱ | 担当者:石渡 雅之 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:None | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
This course will focus on elements of developing a curriculum for language teaching. Areas that will be explored include needs analysis, goals and objectives, syllabus design, methodology and materials. In class, students will discuss, ask questions and complete quizzes and other activities aimed at developing their knowledge of the field.

授業の到達目標
By the successful completion of this course, students will be able to:1-develop and focus their learning of TESOL/TEFL curriculum elements2-make good materials to raise students' motivation3-understand applied or socio linguistics aspects affecting TESOL/TEFL

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Read the class materials before class each week so students can access the quizzes and other activities in time for class. Be organised-prepare and complete tasks early. Identify their special area of interest early so they can plan their presentation project in easy stages and be on time. Although some class time is given to project work, they surely need 7hours over several weeks to complete them to a high quality.

評価方法
35%-reading &quizzes before class25%-Class activities on the moodle20%-Material making and analysis of their effect on learning motivation20%-Essays writing-

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 高梨庸雄・高橋正夫　新・英語教育学概論（金星堂） | Needed information will be introduced in each class and is available from the moodle site. |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Office 7311

| | |
|---|---|
| 01 | Difference of TESOL, TESL, and TEFL |
| 02 | TEFL needs analysis |
| 03 | Motivation and language learning |
| 04 | Goal and objectives |
| 05 | Syllabus design |
| 06 | Case study assignment |
| 07 | The bilingual brain |
| 08 | Lesson plan template assignment information |
| 09 | Discussion and design |
| 10 | Materials listening |
| 11 | Materials activities |
| 12 | Use of ICT in language teaching classes |
| 13 | English ability for JTE |
| 14 | What is CLT? |
| 15 | Review and Communication in English classes |
| 16 | None |

2018年度シラバス

| 科目名:英語科教育学特論Ⅰ | 担当者:石渡　雅之 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:中学校・高等学校教諭専修免許状（英語） | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:特になし | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
この授業は講義を中心とする。英語教育の基礎的・基本的な内容を理論面・実践面の両側面から再確認する内容から始める。その上で、外国語教育学、国際理解教育学、言語心理学、社会言語学などの幅広い視座から英語科教育を多面的にとらえていく授業へと発展させる。尚、授業内では随時英語科教育のカリキュラムを自分で設計できる実践力を身に付けることを目標とした内容にもふれていく。

授業の到達目標
a. 小学校から高等学校までの各段階における外国語としての英語を効果的に教えるための理論と実践の両面を理解することができる。b. 英語教育学の基礎的・基本的な内容を再確認し、それを踏まえた上で、学際的な視座から英語教育学を多面的にとらえることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日本の英語教育に関する事実を理解するために文献を調べ、その上で英語教育に関わる指導法等諸理論をしっかりと学ぶ姿勢を持つこと。

評価方法
課題発表（３回）合計３０％　レポート試験　７０％

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 望月昭彦（編著）新学習指導要領にもとづく英語科教育法（ 大修館書店） | 随時授業にて紹介する |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
特に受講要件として設定するものではないが、英語文献に触れる機会が多いため、英語原書購読ができる程度の英語力が求められる。研究室：７３１１

| | |
|---|---|
| 01 | 授業の進め方、研究方法など |
| 02 | 英語教育と英語教育学 |
| 03 | 英語の国際化と日本の英語教育 |
| 04 | 英語教育学の概要（領域・内容） |
| 05 | 外国語教育概要（日本の小学校英語教育） |
| 06 | 外国語教育概要（日本の中学校英語教育） |
| 07 | 外国語教育概要（日本の高等学校英語教育） |
| 08 | 新学習指導要領と英語科教育法 |
| 09 | 英語学習者論1（学校教育における生徒児童対象） |
| 10 | 英語学習者論２（学校教育外の対象者−成人・外国人） |
| 11 | 日本における英語科教育と国際理解教育 |
| 12 | 総合的な学習の時間と国際理解教育 |
| 13 | 外国語授業カリキュラム論 |
| 14 | 英語教材論1（学校教育での教材） |
| 15 | 英語教材論2（社会教育での教材） |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:英語科教育学特論Ⅱ | 担当者:石渡　雅之 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:中学校・高等学校教諭専修免許状（英語） | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:特になし | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
本授業においては、前記の同科目Ⅰで学んだ内容をベースとして、さらに英語教育学の詳細について多角度から学んでいく。内容としては「教育メディアの活用」という項目も入り、ここでは学習サイト「ムードル」の活用方法、あるいはまとめとして「学習ポートフォリオ」作成などの新しい内容／実践も扱う。また、英語教育学について、学問的な見解をもちながらも実践の場面教育現場における「リスニング指導のあり方」「ライティング指導のあり方」「スピーキング指導のあり方」「リーディング指導のあり方」、更には「授業分析方法と指導案作成方法」といった実践教育全般に関する諸理論にまで踏み込む内容となる。

授業の到達目標
a. 英語科教育の詳細について多角度から学んでいく。b.「ICTの教育活用」という新しいテーマを設定し、学習サイト「ムードル」の英語教育への活用方法、あるいはまとめとして英語教育における「学習ポートフォリオ」作成などの実践方法を理解することができる。c. 「リスニング指導のあり方」「ライティング指導のあり方」「スピーキング指導のあり方」「リーディング指導のあり方」「授業分析方法と指導案作成方法」という実践教育全般に関する諸理論を理解することができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日本の英語教育に関する事実を理解するために文献を調べ、その上で英語教育に関わる指導法等諸理論をしっかりと学ぶ姿勢を持つこと。

評価方法
課題発表（３回）合計３０％　レポート試験　７０％

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 新学習指導要領にもとづく英語科教育法（大修館書店） | 随時授業にて紹介する |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
特に受講要件は設定しないが、英語文献に触れる機会が多いため、英語原書購読ができる程度の英語力が求められる。尚、前期の授業を履修せずに後期から受講する場合は、前期の授業で行った内容を自ら学び理解した上で、出席することが求められる。研究室：７３１１

| | |
|---|---|
| 01 | 授業の進め方、研究方法など |
| 02 | 外国語教育学関連の文献購読（英語教育学） |
| 03 | 外国語教育学関連の文献購読（応用言語学） |
| 04 | 外国語教育と教育ICTの活用（教育評価） |
| 05 | 外国語教育と教育ICTの活用（ムードルサイトの活用方法） |
| 06 | リーディング指導に関する諸理論 |
| 07 | ライティング指導に関する諸理論 |
| 08 | リスニング指導に関する諸理論 |
| 09 | スピーキング指導に関する諸理論 |
| 10 | 英語授業評価理論（授業者焦点） |
| 11 | 英語授業評価理論（学習者焦点） |
| 12 | 授業分析方法と指導案作成方法 |
| 13 | 英語教育と異文化理解 |
| 14 | 英語教育と多文化社会理解 |
| 15 | 学習ポートフォリオの作成 |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:日本文化特論 I | 担当者:太田　昌孝 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須. 選択 | |

授業概要と方法
文芸作品の中でも特に詩について学ぶ。日本近現代詩の歴史は外国に類を見ない特殊な性質を帯びている。授業では、その特殊性を明らかにするため、日本近現代詩の著名な作品をテキストにして、日本古来の「歌」の伝統を基盤として形成された日本近現代詩にヨーロッパ文学がどのような影響を与えたかについて学ぶ。また、特に西脇順三郎、立原道造、中原中也等を中心とする、昭和初年代

授業の到達目標
日本近現代詩の魅力と鑑賞方法について学ぶ。　・詩という文芸が持つ魅力について、日本近現代詩を代表する作品をもとに理解を深める。　・近代詩及び現代詩の持つ特性を学ぶことにより、詩という文芸の鑑賞方法について理解を深める。

・詩の創作に興味を抱いた受講生は実際に作品を創作する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日本近現代詩の魅力と鑑賞方法について学ぶ。　・詩という文芸が持つ魅力について、日本近現代詩を代表する作品をもとに理解を深める。　・近代詩及び現代詩の持つ特性を学ぶことにより、詩という文芸の鑑賞方法について理解を深める。

・詩の創作に興味を抱いた受講生は実際に作品を創作する。

評価方法
課題、受講態度、レポートを通じて総合的に評価する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 随時、プリントを用意する。 | 「日本文学大事典」等 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　系統的な講義なので欠席をしないようにすること。

| | |
|---|---|
| 01 | 講義概説（講義の目標とその概説） |
| 02 | 詩学入門1（日本近現代詩の成立と展開・明治から大正） |
| 03 | 詩学入門2（日本近現代詩の成立と展開・昭和から平成） |
| 04 | 作品鑑賞1（萩原朔太郎と口語自由詩）「月に吠える」味読 |
| 05 | 作品鑑賞2（宮沢賢治の世界）「春と修羅」味読 |
| 06 | 作品鑑賞3（立原道造の抒情詩1）「萱草に寄す」味読① |
| 07 | 作品鑑賞4（立原道造の抒情詩2）「萱草に寄す」味読② |
| 08 | 作品鑑賞5（中原中也の魅力）詩編二作読解 |
| 09 | 作品鑑賞6（西脇順三郎の詩と詩論1）「超現実主義詩論」分析① |
| 10 | 作品鑑賞7（西脇順三郎の詩と詩論2）「超現実主義詩論」分析② |
| 11 | 作品鑑賞8（鮎川信夫と戦後詩）「死んだ男」味読 |
| 12 | 作品鑑賞9（谷川俊太郎の抒情と感性1）「二十億光年の孤独」味読① |
| 13 | 作品鑑賞10（谷川俊太郎の抒情と感性2）「二十億光年の孤独」味読② |
| 14 | 作品鑑賞11（活躍する現代詩人）和合亮一と小池昌代 |
| 15 | 講義のまとめ：現代詩の行方 |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:日本文化特論Ⅱ | 担当者:太田　昌孝 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
文芸作品の中でも特に詩について学ぶ。日本近現代詩の歴史は外国に類を見ない特殊な性質を帯びている。授業では、その特殊性を明らかにするため、日本近現代詩の著名な作品をテキストにして、日本古来の「歌」の伝統を基盤として形成された日本近現代詩にヨーロッパ文学がどのような影響を与えたかについて学ぶ。また、特に西脇順三郎、立原道造、中原中也等を中心とする、昭和初年代の詩人の作品を鑑賞することにより、現代詩という文芸の持つ本質について講義する。

授業の到達目標
日本近現代詩の魅力と鑑賞方法について学ぶ。　・詩という文芸が持つ魅力について、日本近現代詩を代表する作品をもとに理解を深める。　・近代詩及び現代詩の持つ特性を学ぶことにより、詩という文芸の鑑賞方法について理解を深める。

・詩の創作に興味を抱いた受講生は実際に作品を創作する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・詩集を数冊選び、興味深く読んだ作品をコピーする。

評価方法
課題、受講態度、レポートを通じて総合的に評価する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 随時、プリントを用意する。 | 「日本文学大事典」等 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
系統的な講義なので欠席をしないようにすること。

| | |
|---|---|
| 01 | 講義概説（講義の目標とその概説） |
| 02 | 詩学入門1（日本近現代詩の成立と展開・明治から大正） |
| 03 | 詩学入門2（日本近現代詩の成立と展開・昭和から平成） |
| 04 | 作品鑑賞1（萩原朔太郎と口語自由詩） |
| 05 | 作品鑑賞2（宮沢賢治の世界） |
| 06 | 作品鑑賞3（立原道造の抒情詩1） |
| 07 | 作品鑑賞4（立原道造の抒情詩2） |
| 08 | 作品鑑賞5（中原中也の魅力） |
| 09 | 作品鑑賞6（西脇順三郎の詩と詩論1） |
| 10 | 作品鑑賞7（西脇順三郎の詩と詩論2） |
| 11 | 作品鑑賞8（鮎川信夫と戦後詩） |
| 12 | 作品鑑賞9（谷川俊太郎の抒情と感性1） |
| 13 | 作品鑑賞10（谷川俊太郎の抒情と感性2） |
| 14 | 作品鑑賞11（活躍する現代詩人） |
| 15 | 講義のまとめ |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:アジア文化特論Ⅰ | 担当者:高　文軍 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
この授業は、旧カリキュラムの「中国文学特論」から変わって来たものである。教員も含め、視野を中国から全アジアへ広げる必要が出てくる。本授業は「漢字文化圏」という概念を、時間を縦軸とアジア諸国情況を横軸に、双方追究していく。方法としては、講義を中心として進む。時には、受講者よりの調査、発表も課される。

授業の到達目標
　地域文化に関する基礎知識を身に着けることを目標である。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
積極的な授業参加以外、自分自身が興味を持って調べる考えること。時間外学修は、関連する資料調べ用に、４時間とする。

評価方法
　学習の意欲及び終了時のレポート提出により評価する。授業への参加態度５０%、期末レポート５０%。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| なし | 白川静『漢字百話』、『漢字の世界―中国文化の原点』など |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
研究室：7322　オフィスアワー：月曜日２限　メールアドレス：gaowj@ohkagakuen-u.ac.jp

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション |
| 02 | 漢字文化とは |
| 03 | 漢字文化の形成　（１）春秋、戦国～秦、漢 |
| 04 | 漢字文化の形成　（１）春秋、戦国～秦、漢-2 |
| 05 | 漢字文化の形成　（２）魏晋南北朝～隋、唐 |
| 06 | 漢字文化の形成　（２）魏晋南北朝～隋、唐-2 |
| 07 | 漢字文化圏の形成　（１）中国から日本① |
| 08 | 漢字文化圏の形成　（２）中国から日本② |
| 09 | 漢字文化圏の形成　（３）中国から朝鮮半島① |
| 10 | 漢字文化圏の形成　(4) 中国から朝鮮半島② |
| 11 | 漢字文化圏の形成　（５）中国からベトナム |
| 12 | 漢字文化圏の変化　（１）日本漢字の逆輸出①　近代中国語の変化 |
| 13 | 漢字文化圏の変化　（２）日本漢字の逆輸出②　近代中国語の変化 |
| 14 | 漢字文化圏の変化　（３）脱漢字傾向 |
| 15 | 総まとめ |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:アジア文化特論Ⅱ | 担当者:高　文軍 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
この授業は、旧カリキュラムの「中国文学特論」から変わって来たものである。教員も含め、視野を中国から全アジアへ広げる必要が出てくる。本授業は「漢字文化圏」という概念を、時間を縦軸とアジア諸国情況を横軸に、双方追究していく。方法としては、講義を中心として進む。時には、受講者よりの調査、発表も課される。

授業の到達目標
地域文化に関する基礎知識を身に着けることを目標である。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
積極的な授業参加以外、自分自身が興味を持って調べる考えること。時間外学修は、関連する資料調べ用に、４時間以上とする。

評価方法
　学習の意欲及び終了時のレポート提出により評価する。授業への参加態度５０%、期末レポート５０%。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 特になし、授業時に指示する。 | 白川静『漢字百話』、『漢字の世界―中国文化の原点』，蔡毅『日本における中国伝統文化』など |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
研究室：7322　オフィスアワー：月曜日２限　メールアドレス：gaowj@ohkagakuen-u.ac.jp

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション |
| 02 | 漢字文化自身の変化－白話文学（１） |
| 03 | 漢字文化自身の変化－白話文学（２） |
| 04 | 漢字文化自身の変化－白話文学（３） |
| 05 | 漢字文化の日本受容（１）（文字） |
| 06 | 漢字文化の日本受容（２）（文字） |
| 07 | 漢字文化の日本受容（３）（文字） |
| 08 | 漢字文化の日本受容（４）（文学） |
| 09 | 漢字文化の日本受容（５）（文学） |
| 10 | 漢字文化の日本受容（６）（書道） |
| 11 | 漢字文化の日本受容（７）（書道） |
| 12 | 漢字文化の日本受容（８）（美術） |
| 13 | 漢字文化の日本受容（９）（美術） |
| 14 | 漢字文化の日本受容（10）（民俗） |
| 15 | 総まとめ |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:文化人類学特論 I | 担当者:成田　弘成 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:特になし | | 単位数 | 2 |
| | | 必須. 選択 | |

授業概要と方法
本授業は、文化人類学の基本的な枠組みを説明しつつ、過去を照射しながら、同学問の新しい方向性を探求する。具体的には、過去の人類学者たちの理論と功績を再評価しながら、グローバル時代の固有の文化(伝統性)の在り方の問題など、メディア資料を使い、講義を行う。

授業の到達目標
グローバル化する世界において、マイノリティを含め、ローカルな文化の価値づけを行う意義について学び、また多数のローカルな文化が動態化してゆく過程を追求し、現代の私たちの価値観を客観的に捉える方法論について学ぶことを目標とする

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
毎回のテーマにそった資料を配布するので、簡単なプレゼンを行い、質疑応答をする準備を事前に行い、授業後はそのテーマを掘り下げるための資料収集を行う。毎週、予習・復習にはそれぞれ２時間以上の時間をかけ、しっかりと授業内容を理解するようにしてください。更には、レポート作成には、それ以上の時間をかけて、真剣に取り組んでください。

評価方法
授業中のディベートやプレゼンの活動について　50%　　中間および期末レポートの評価　50%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 特になし | その都度指示します。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
大学院における少人数の授業なので予習と復習を徹底して行い、オフィイスアワー(月−昼休み、7号館３階の研究室)も利用して積極的に質問をしてほしい。

| | |
|---|---|
| 01 | 文化人類学の始まり |
| 02 | イギリスのマリノウスキーによるフィールドワーク |
| 03 | イギリスのエバンス・プリチャードによるアフリカ研究 |
| 04 | イギリスのマックス・グラックマンによる法と紛争の研究 |
| 05 | イギリスのエドモンド・リーチによる社会人類学の発展 |
| 06 | アメリカのボアズによる文化相対主義の発展 |
| 07 | アメリカのマーガレット・ミードによる南太平洋研究 |
| 08 | アメリカの国民文化研究 |
| 09 | アメリカにおけるジェンダー研究の展開 |
| 10 | フランスにおける文化人類学の発展 |
| 11 | ドイツにおける文化人類学の発展 |
| 12 | ヨーロッパにおける文化人類学の発展 |
| 13 | アジアにおける文化人類学の発展 |
| 14 | 日本における文化人類学の発展と歴史1 |
| 15 | 日本における文化人類学の発展と歴史2 |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:文化人類学特論Ⅱ | 担当者:成田　弘成 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:特になし | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
本授業は、文化人類学の基本的な枠組みを説明しつつ、新世紀の問題に対応した開発と観光の問題を、民族観光の事例を中心に取り上げて、同学問の新しい方向性を探求するものである。具体的には、グローバル時代の人間の癒し志向の在り方、あるいはまた自然や文化的な景観の問題など、メディア資料を使い、講義を行う。

授業の到達目標
グローバル化する世界において、マイノリティを含め、ローカルな文化の価値づけを行う意義について学び、また多数のローカルな文化が動態化してゆく過程を追求し、現代の私たちの価値観を客観的に捉える方法論について学ぶことを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
毎回のテーマにそった資料を配布するので、簡単なプレゼンを行い、質疑応答をする準備を事前に行い、授業後はそのテーマを掘り下げるための資料収集を行う。毎週、予習・復習には各２時間以上の時間をかけ、しっかりと授業内容を理解するようにしてください。また特に期末レポートは、自分の理解度を示す機会と考え、積極的に取り組んでほしい。

評価方法
授業中のディベートやプレゼンの活動について　50%　　中間および期末レポートの評価　50%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 特になし | その都度指示します。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
大学院は少人数の授業なので予習と復習を徹底して行い、オフィイスアワー(月-昼休み、7号館３階の研究室)も利用して積極的に質問をしてほしい。

| | |
|---|---|
| 01 | グローバリゼーション時代の開発と観光 |
| 02 | 開発と観光におけるオーセンティシティ論 |
| 03 | 開発と観光における「まなざし」理論 |
| 04 | 開発と観光における「文化」理論 |
| 05 | 開発と観光における「コミュニティ」型発展 |
| 06 | アフリカににおける事例 |
| 07 | 東南アジアにおける事例 |
| 08 | 南アジアにおける事例 |
| 09 | 東アジアにおける事例 |
| 10 | 南太平洋における事例 |
| 11 | 北アメリカにおける事例 |
| 12 | 南アメリカにおける事例 |
| 13 | ヨーロッパにおける事例 |
| 14 | 東ヨーロッパにおける事例 |
| 15 | 極北における事例 |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:Cultural Anthropology Ⅰ | 担当者:成田　弘成 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:特になし | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
本授業では、特にアメリカで発展した文化人類学(Cultural Anthropology)の基本的な考え方を説明し、同時に21世紀における同学問の課題と新しい方向性を探求する。具体的には、マーガレット・ミードに代表される研究を紹介しつつ、彼女がフィールドワークした南太平洋地域の民族文化などの問題など、メディア資料を使い、英語による講義を行う。

授業の到達目標
アメリカで必要とされる文化人類学の本質的理解を学び、グローバル化する世界において、文化相対主義のあり方を議論する必要性や文化人類学としての手法としてのフィールドワークの技術を学ぶことを目標とする。またアメリカ人類学のパイオニアとしてのマーガレット・ミードやルース・ベネディクトの業績を再評価する意義について学ぶ。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
毎回のテーマにそった英文資料を配布するので、事前によく理解しておいてください。また簡単なプレゼンを行う機会を提供しますので、レジュメ等の作成をしてください。また毎回、英語による質疑応答をしますので、準備を事前に行い、授業後はそのテーマを掘り下げるための資料収集を行ってください。

評価方法
授業中のディベートやプレゼンの活動について　50%　　中間および期末レポートの評価　50%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 特になし | その都度、資料を配布する。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講要件は、特にないが、すべて英語による授業なので予習と復習を徹底して行い、オフィイスアワー(月-昼休み、7号館３階の研究室)も利用して積極的に質問をしてほしい。

| | |
|---|---|
| 01 | アメリカにおける文化人類学の創始者-ボアズ |
| 02 | ボアズによる北米フィールドワーク |
| 03 | アメリカ・インディアンの過去・現在・未来 |
| 04 | マーガレット・ミードによるニューギニア研究 |
| 05 | ニューギニア・マヌス島の社会と文化 |
| 06 | 男性による育児とジェンダーの問題 |
| 07 | マーガレット・ミードによるサモア研究 |
| 08 | サモア社会と文化 |
| 09 | サモアにおける思春期の性とアメリカとの比較 |
| 10 | ミードによるサモア研究への評価をめぐる議論 |
| 11 | ルース・ベネディクトの「文化とパーソナリティ」論 |
| 12 | ベネディクトの著作「菊と刀」 |
| 13 | アメリカにおける日本文化研究 |
| 14 | アメリカ・文化人類学の方法論1 1930年代から1940年代まで |
| 15 | アメリカ・文化人類学の方法論2　1950年代以降 |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:Cultural Anthropology Ⅱ | 担当者:成田　弘成 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:特になし | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
本授業では、特にアメリカで発展した文化人類学(Cultural Anthropology)の手法を理解した上で、現在課題となっている様々な諸問題にテーマを絞って議論を深める。具体的には、異文化理解から、移民・難民問題、食文化にいたるまで、多様なテーマを対象とする文化人類学のアプローチを検討する。授業では、メディア資料を使い、英語による講義を行う。

授業の到達目標
グローバル化する世界において、課題となっている問題に対する文化人類学の手法と意義を学ぶ。特に、アメリカを始め、多くの国で課題となっている他民族との共生に対して、文化人類学の考え方が有効であることを学ぶ。また議論のための英文資料収集の方法についても学ぶ。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
毎回のテーマにそった英文資料を配布するので、事前によく理解しておくこと。また簡単なプレゼンを行う機会を提供しますので、レジュメ等の作成をしてください。また毎回、英語による質疑応答をしますので、準備を事前に行い、授業後はそのテーマを掘り下げるための資料収集を行ってください。

評価方法
授業中のディベートやプレゼンの活動について　50%　　中間および期末レポートの評価　50%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 特になし | その都度、指示する。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講要件は、特にないが、すべて英語による授業なので予習と復習を徹底して行い、オフィイスアワー(月-昼休み、7号館３階の研究室)も利用して積極的に質問をしてほしい。

| | |
|---|---|
| 01 | 文化人類学の現代的課題 |
| 02 | グローバリゼーションと人類学 |
| 03 | 議論ー異文化コミュニケーション(明示的社会と非明示的社会)論の意義 |
| 04 | 教育(子育て)と人類学 |
| 05 | 議論ージェンダーシフト/女性のエンパワーメント |
| 06 | ジェンダーと人類学 |
| 07 | 議論ー同性婚 |
| 08 | 組織と人類学 |
| 09 | 議論ー多国籍企業とローカル・カルチャー |
| 10 | 開発と人類学 |
| 11 | 議論ーコミュニティ型開発と援助、難民問題 |
| 12 | 医療と人類学 |
| 13 | 議論ー臓器移植・クローン人間 |
| 14 | 食文化と人類学 |
| 15 | 議論ーエスニック・フード/スロー・フード |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:観光学特論Ⅰ | 担当者:辻　のぞみ | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
　日本のインバウンド観光政策の歴史と現状について、観光庁による「観光白書」ほか、国の観光政策資料をベースに、講義とディスカッション形式で授業を行う。

授業の到達目標
　日本のインバウンド観光政策の歴史と現状を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
事例の実地視察やレポートを授業外の課題として指示します。

評価方法
授業参加度、積極性50%、課題レポートの作成、課題のプレゼンテーション等50%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 適宜資料を配布します | 必要に応じて提示します。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　連絡手段はメールと研究室です。

| | |
|---|---|
| 01 | インバウンド観光とは |
| 02 | 世界のインバウンド観光の状況1 |
| 03 | 世界のインバウンド観光の状況2 |
| 04 | 日本のインバウンド観光の歴史1 |
| 05 | 日本のインバウンド観光の歴史2 |
| 06 | 訪日旅行の市場1 |
| 07 | 訪日旅行の市場2 |
| 08 | 訪日旅行の市場3 |
| 09 | 訪日旅行の市場4 |
| 10 | 訪日旅行の市場5 |
| 11 | インバウンド観光政策1 |
| 12 | インバウンド観光政策2 |
| 13 | インバウンド観光政策3 |
| 14 | インバウンド観光プロモーション1 |
| 15 | インバウンド観光プロモーション2 |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:観光学特論Ⅱ | 担当者:辻　のぞみ | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
　観光マーケティングの理論を学ぶとともに、地域における観光振興の取り組みについて、特にそのインバウンド観光への取り組みについて、講義とディスカッション形式で授業を行う。

授業の到達目標
観光マーケティング論を理解し、地元地域における具体例による学びによりその理解を深めること。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
事例の実施視察やレポートを授業外の課題として指示します。

評価方法
授業参加度、積極性50%、課題レポートの作成、課題のプレゼンテーション等50%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 適宜資料を配布します | 必要に応じて提示します |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　連絡手段はメールと研究室です。

| | |
|---|---|
| 01 | 観光マーケティングとは1 |
| 02 | 観光マーケティングとは2 |
| 03 | 中部地方の観光政策1 |
| 04 | 中部地方の観光政策2 |
| 05 | 中部地方の観光政策3 |
| 06 | 中部地方の観光政策4 |
| 07 | 愛知県の観光政策1 |
| 08 | 愛知県の観光政策2 |
| 09 | 愛知県の観光政策3 |
| 10 | 名古屋市・豊明市の観光政策1 |
| 11 | 名古屋市・豊明市の観光政策2 |
| 12 | 名古屋市・豊明市の観光政策3 |
| 13 | 地方創生とインバウンド1 |
| 14 | 地方創生とインバウンド2 |
| 15 | 地方創生とインバウンド3 |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:都市問題特論Ⅰ | 担当者:森田　優己 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:なし | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
都市とは，人口や経済・社会・文化機能が集中・集積する土地空間である。それゆえに、都市は、人間の社会生活全般にとってメリットをもたらすとともに，デメリットをもたらす。その都市はどのようにして生成しどのような発展過程をたどるのであろうか。本講義では、都市論の古典である『都市の文化』をじっくり読みこみ討論することによって、そもそも都市とは何であるのかについて共に考察していく。

授業の到達目標
都市論の古典であり難解な書である『都市の文化』から、都市とは何かを学びとること。正確に著者の意図を読み取り要領よく要約する技術をみにつけ、読み込む作業の中で思考をねりあげていくこと。これが、修士論文作成のための基本的スキルとなる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
当該個所のレジュメを作成、また討論のまとめを作成するために、事前・事後に最低4時間の学修時間が必要となる。

評価方法
学修態度30%、期末レポート70%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| ルイス・マンフォード『都市の文化』鹿島出版会 | 適宜指示する |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業時間外での質問は、木曜日４限目のオフィスアワーに研究室で受け付ける。この時間以外については、メールでアポイントをとること。メールアドレスは、授業時間内に開示する。

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション |
| 02 | 第1章　保護と中世都市１～６ |
| 03 | 第1章　保護と中世都市７～１２ |
| 04 | 第2章　宮廷・盛儀・首都１～８ |
| 05 | 第2章　宮廷・盛儀・首都９～１６ |
| 06 | 小括 |
| 07 | 第3章　非常なる産業都市１～８ |
| 08 | 第3章　非常なる産業都市９～１６ |
| 09 | 第4章　巨大都市の興亡１～８ |
| 10 | 第4章　巨大都市の興亡９～１７ |
| 11 | 小括 |
| 12 | 第5章　文明の地域的構造 |
| 13 | 第6章　地域開発政策 |
| 14 | 第7章　新しい都市の社会的基礎１～８ |
| 15 | 第7章　新しい都市の社会的基礎９～１６ |
| 16 | まとめ　レポート提出 |

| 科目名:都市問題特論Ⅱ | 担当者:森田　優己 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:都市問題特論Ⅰの単位修得 | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
都市とは，人口や経済・社会・文化機能が集中・集積する土地空間である。それゆえに、都市は、人間の社会生活全般にとってメリットをもたらすとともに，デメリットをもたらす。その都市はどのようにして生成しどのような発展過程をたどるのであろうか。本講義では、都市研究の古典と言われる『アメリカ大都市の死と生』から始め、『フラット化する世界』、『クリエイティブ都市論』、『新クリエイティブ資本論』へと読み進める。古典から現代の代表的な都市論までをじっくり読みこみ討論していく。

授業の到達目標
都市研究の古典から現代の代表的な都市論を読み進める中で、自分なりの都市論を構築することが目標である。他者の見解を自分なりに咀嚼し、批判的にまとめ、自分の視点を形成する過程を学ぶ。これが、修士論文作成のための基本的スキルとなる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
当該個所のレジュメを作成、また討論のまとめを作成するために、事前・事後に最低4時間の学修時間が必要となる。

評価方法
学修態度30%、期末レポート70%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 上記4点（計５冊） | 適宜指示する |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業時間外での質問は、オフィスアワーに研究室で受け付ける。この時間以外については、メールでアポイントをとること。オフィスアワーの時間とメールアドレスは、授業時間内に開示する。

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション |
| 02 | アメリカ大都市の死と生　第1回 |
| 03 | アメリカ大都市の死と生　第2回 |
| 04 | 小括 |
| 05 | フラット化する世界　第１回 |
| 06 | フラット化する世界　第２回 |
| 07 | フラット化する世界　第３回 |
| 08 | 小括 |
| 09 | クリエイティブ都市論　第1回 |
| 10 | クリエイティブ都市論　第２回 |
| 11 | クリエイティブ都市論　第３回 |
| 12 | 新クリエイティブ資本論　第1回 |
| 13 | 新クリエイティブ資本論　第２回 |
| 14 | 新クリエイティブ資本論　第３回 |
| 15 | 小括 |
| 16 | まとめ　期末レポート提出 |

2018年度シラバス

| 科目名:歴史学特論Ⅰ | 担当者:布　和 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
　前近代の日中交流史から日本史全体を眺めるものである。授業では、時代ごとの文献史料を提示して解説し、学生との問答も行う。授業内容は学部時の教養講義を深めたものとする。

授業の到達目標
　この講義を通じて、前近代の日中交流史についての理解を深め、新たな視点で日中関係を見つめ直すことを期待したい。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　授業後にもう一度、提示された文献史料を1時間程度をかけて読み直すことを勧める。

評価方法
　６回以上の欠席は単位取得ができない。授業参加意欲(50%)とレポート(50%)で評価する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| プリントを配る予定 | 授業で指定する |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　授業計画は進度によって多少な変更が生じる。担当教員のメイルアドレスbuhe@muf.biglobe.ne.jp

| | |
|---|---|
| 01 | 講義説明 |
| 02 | 日中交流の幕開け① |
| 03 | 日中交流の幕開け② |
| 04 | 遣唐使の時代① |
| 05 | 遣唐使の時代② |
| 06 | 蒙古襲来① |
| 07 | 蒙古襲来② |
| 08 | 小結 |
| 09 | 倭寇の時代① |
| 10 | 倭寇の時代② |
| 11 | 琉球の中継貿易① |
| 12 | 琉球の中継貿易② |
| 13 | 明清交替と台湾① |
| 14 | 明清交替と台湾② |
| 15 | まとめ |
| 16 | |

2018年度シラバス

| 科目名:歴史学特論Ⅱ | 担当者:布　和 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
　近現代の日中交流史から日本史全体を眺めるものである。授業では、文献史料を提示して解説し、学生との問答も行う。授業内容は学部時の教養講義を深めたものとするが、前期の講義Ⅰの延長である。

授業の到達目標
　この講義を通じて、近現代の日中交流史についての理解を深め、新たな視点で日中関係を見つめ直すことを期待する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　授業後にもう一度、提示された文献史料を1時間から２時間程度をかけて読み直すことを勧める。

評価方法
　６回以上の欠席は単位取得ができない。授業参加意欲(50%)とレポート(50%)で評価する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| プリントを配る予定。 | 授業で指定する |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　授業計画は進度によって多少な変更が生じる。担当教員のメイルアドレスbuhe@muf.biglobe.ne.jp

| | |
|---|---|
| 01 | 講義説明 |
| 02 | 近代日本の開国 |
| 03 | 近代中国の開国 |
| 04 | 琉球処分について① |
| 05 | 琉球処分について② |
| 06 | 日清関係と朝鮮① |
| 07 | 日清関係と朝鮮② |
| 08 | 小結 |
| 09 | 日本の清国留学生① |
| 10 | 日本の清国留学生② |
| 11 | 日中戦争前夜の国際関係① |
| 12 | 日中戦争 |
| 13 | 魯迅と内山完造の交流① |
| 14 | 魯迅と内山完造の交流② |
| 15 | まとめ |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:女性史特論Ⅰ | 担当者:石月　静恵 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
　日本女性史を古代から近代まで資料を読みながら概観します。それぞれの時代の特徴と女性の地位の変遷を考察します。授業方法は、基本的には講義としますが、テキストの資料については、授業時に受講者に読んでいただき、疑問点を発言していただきます。それらを踏まえて、時代の特徴と女性の地位の関連を解説します。

授業の到達目標
　日本における女性の地位の変遷過程を理解することを目標とします。具体的には、古代・中世・近世・近代という時期区分に従い、時代の特徴と女性の権利や家族の中での女性の位置を理解できることを目指します。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　日本史の基礎的知識（中学日本史程度で結構です）を世界史の時期区分に照らして確認しておいてください。また、テキストは、事前に読んで、資料も音読できるようにしておいてください。期末テストの代わりにレポートを課しますので、課題について調査・研究してレポートを提出していただきます。準備学修は、1講義につき60分、第2回から第14回まで計13時間、事後学修は1講義につき30分、第2回から第15回まで計7時間、レポート作成のための調査・研究に5時間、レポート作成に5時間、学習時間は合計で30時間とする。

評価方法
　授業への出席・参加30%　　発表30%　　レポート40%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 『史料にみる日本女性のあゆみ』吉川弘文館 | 授業時に紹介します |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　前近代の史料は読みにくいかもしれませんが、手書き文書ではなく、活字ですので、辞書等を活用して読んでおいてください。なお、連絡方法は、授業時にお知らせします。

| | |
|---|---|
| 01 | ガイダンス |
| 02 | 古代①　政治権力の場で |
| 03 | 古代②　結婚の変化と売買春 |
| 04 | 古代③　生活とはたらき |
| 05 | 古代④　自己表現と束縛のはざま |
| 06 | 中世①　政治史で活躍した女性 |
| 07 | 中世②　婚姻・妻・財産 |
| 08 | 中世③　女性と宗教 |
| 09 | 近世①　武家女性の地位と思索 |
| 10 | 近世②　農村女性の労働と生活 |
| 11 | 近世③　結婚・出産と売買春 |
| 12 | 近世④　女性の旅日記 |
| 13 | 近代①　文明開化と女性 |
| 14 | 近代②　資本主義の成立と女性の役割 |
| 15 | まとめ |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:女性史特論Ⅱ | 担当者:石月　静恵 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
　近代日本の女性の歴史を概観します。女性の状況を政治・教育・労働・生活・運動・思潮の各側面から多角的にとらえます。そのうえで、女性が置かれた差別的状態を変えようと努力した近代の女性たちの足跡をたどります。授業は講義を中心にしますが、各テーマごとに受講生がまとめてレジュメを作成し、要点を報告していただきます。

授業の到達目標
　近代日本の女性の歴史を時代的背景の中で理解することを目標にします。女性が置かれた状態とそれを変えようとする女性たちの活動を学び、現代の女性問題に対する理解を深めることを目指します。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　授業時にテーマごとにまとめて発表していただきますので、その準備をしておいてください。また、期末テストに変えてレポートを課しますので、調査・研究してレポートを作成してください。事前学修は、政治・教育・労働・生活・運動・思潮の各テーマごとに２時間、計12時間。事後学修は、1回の講義につき各30分、第2回から第15回まで計7時間。レポート作成のための調査・研究に5時間、レポート執筆に6時間、学修時間は合計で30時間を要します。

評価方法
　授業への出席・参加30%　　授業時の発表30%　　レポート40%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 石月静恵『近代日本女性史講義』世界思想社（出版社で在庫がないため、著者が用意します） | 授業時に紹介します |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　事前に関係する箇所を読んでおいてください。連絡手段は授業時にお知らせします。

| | |
|---|---|
| 01 | ガイダンス |
| 02 | 政治①　近代国家と法 |
| 03 | 政治②　女性の人権と政治からの排除 |
| 04 | 教育①　女子教育と良妻賢母主義 |
| 05 | 教育②　女学校と女子大学 |
| 06 | 労働①　女性労働の形成と社会問題化 |
| 07 | 労働②　女性労働の拡大と勤労動員 |
| 08 | 生活①　家族制度と日常生活 |
| 09 | 生活②　生活の変化と家事労働 |
| 10 | 運動①　女性運動の成立と展開 |
| 11 | 運動②　大正デモクラシーの影響 |
| 12 | 運動③　女性運動の高揚と退潮 |
| 13 | 思潮①　女性をめぐる論争 |
| 14 | 思潮②　女性解放論 |
| 15 | まとめ |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:言語学特論Ⅲ | 担当者:都　恩珍 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
ことばと社会の様々な角度の関係を取り上げ、実際の社会で進行中の変化を捉え、日本での研究例を通してことばの変化と社会的要因の関わりについて、なぜ変化が起こるのかという原因とメカニズムを考察する。関連論文および参考書を精読し、自分なりの理解を述べながら討議し、主題についてレポートを出す。

授業の到達目標
現在進行中の言語の変化に注目し、観察・分析することができるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
言語資料の収集と観察、参考文献の整理などに約4時間の学修時間を必要とする。

評価方法
授業中の課題発表（40%）、レポート（40%）、学習活動への参加（授業態度）20%

教科書
『社会のなかの言語』スザーン・ロメイン　三省堂

参考図書
『社会言語学概論』中尾俊夫　日比谷潤子　服部範子　くろいそ出版『韓国人による日本社会言語学研究』真田信治監修　任 榮哲　おうふう『ことばのコミュニケーション』岡本真一郎　ナカニシヤ出版『バイリンガルはどのようにして言語を習得するのか』山本雅代　明石書店

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日常の言葉を研究の対象として観察すると、様々な面白さが見えてきます。　連絡先は授業中に提示します。諸事情により予定を変更することもあります。　オフィスアワー：金曜日３限

| | |
|---|---|
| 01 | 社会のなかの言語、言語のなかの社会 |
| 02 | 言語の選択 |
| 03 | 社会言語学的なパターン |
| 04 | 言語とジェンダー |
| 05 | 社会からみた言語変化 |
| 06 | 言語接触 |
| 07 | 社会問題としての言語問題 |
| 08 | 社会言語学と方言研究 |
| 09 | 社会言語学と第２言語習得 |
| 10 | バイリンガル |
| 11 | コミュニケーション論 |
| 12 | 日本の社会言語学的研究（１）韓国人のコミュニケーション |
| 13 | 日本の社会言語学的研究（２）日本人と韓国人の言語行動 |
| 14 | 日本の社会言語学的研究（３）日本と韓国の言語表現の比較 |
| 15 | 日本の社会言語学的研究（４）日本における韓国人・韓国語 |
| 16 | なし |

2018年度シラバス

| 科目名:言語学特論Ⅳ | 担当者:都　恩珍 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | |

授業概要と方法
海外と日本の言語教育の現場における事例を通して、とりわけ文化の理解と言語の教育、言語行動と社会・文化の観点で言語と社会の関係を考える。関連論文および参考書を精読し、自分なりの理解を述べながら討議し、主題についてレポートを出す。

授業の到達目標
これまでに学んできた言語学の理論を実践例に照らし合わせることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
言語資料の収集と観察、参考文献の整理などに約4時間の学修時間を必要とする。

評価方法
授業中の課題発表（40%）、レポート（40%）、学習活動への参加（授業態度）20%

教科書
『講座・日本語教育学』縫部義憲監修、水島裕雅編集　第１巻、『講座・日本語教育学』縫部義憲監修、町博光編集　第２巻

参考図書
『日本語教育を学ぶ』遠藤織枝　SANSHUSHA 『多文化共生のコミュニケーション』徳井厚子　アルク『言語学習ストラテジー』レベッカ　L.オックスフォード　凡人社『バイリンガル教育の方法』中島和子　アルク

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日常の言葉を研究の対象として観察すると、様々な面白さが見えてきます。　　連絡先は授業中に提示します。諸事情により予定を変更することもあります。　オフィスアワー：金曜日３限

| | |
|---|---|
| 01 | 日本文化への視座 |
| 02 | 日本文化と異文化・異言語 |
| 03 | 国際交流の中の日本語教育 |
| 04 | 日本語教育の歴史と展望 |
| 05 | 何を教えるか、どう教えるか |
| 06 | 多言語社会・多言語教育 |
| 07 | 異文化接触 |
| 08 | コミュニケーションにおける言語・非言語行動 |
| 09 | 対照言語行動分析（１）日・韓・中 |
| 10 | 対照言語行動分析（２）日・英 |
| 11 | バイリンガル教育の理論と海外の事例（１）アメリカのバイリンガル教育 |
| 12 | バイリンガル教育の理論と海外の事例（２）海外子女とバイリンガル教育 |
| 13 | バイリンガル教育の理論と海外の事例（３）日系人子女とバイリンガル教育 |
| 14 | 言語学習ストラテジー（１）言語学習のための直接ストラテジー |
| 15 | 言語学習ストラテジー（２）言語学習のための間接ストラテジー |
| 16 | なし |